

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	20035
課題名	8K 内視鏡システムを用いた胆道閉鎖症根治術（葛西手術）の検討
研究期間	西暦 2020年 6月 10日 ～ 2024年 3月 31日
研究の対象	1983年4月1日～2024年3月31日に当院で胆道閉鎖症の手術を受けた患者さん
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、診断名、病歴、治療内容、検査結果、画像診断結果、体表写真、手術記録、病理検査結果） <input type="checkbox"/> 試料：手術で採取した組織（対象臓器等名：）
研究の意義、目的	<p>胆道閉鎖症は、新生児期から乳児期早期に発症する難治性の胆汁うっ滞疾患です。発生頻度は10,000から15,000出生に1人とされています。</p> <p>最終的な確定診断は全身麻酔下手術による直接胆道造影が必要です。胆道閉鎖症の診断が確定したら、病型に応じて肝外胆管を切除して、肝管あるいは肝門部空腸吻合術が施行されます。</p> <p>しかし、この手術により黄疸消失が得られるのは全体の約6割程度です。術後に黄疸が再発した場合や、上記合併症で著しくQOLが障害されている場合などには最終的に肝移植が必要となります。</p> <p>この手術の際に、肝門部の胆汁流出部を探索することは非常に重要であり、今までは他施設含め肉眼的な判断が主流でした。近年、腹腔鏡下での拡大視効果の報告がみられますが、8K内視鏡システムを用いた手術成績の報告はまだありません。</p> <p>胆道閉鎖症根治手術の際に、当院の8K内視鏡システムを用いて、肝門部の観察を入念に行い、確実な肝門部空腸吻合を施行し、よりよい患児の黄疸消失を目指し、さらには胆道閉鎖症のすべての患児の治療成績の向上に貢献したいです。</p>
研究の方法	1983年4月1日から2024年3月31日までに、当科で胆道閉鎖症の手術を受けた症例について、診療録をもとに理学所見、血液検査結果、画像検査所見、手術記録（術中動画含む）、病理検査について、従来の術式と比較・検討します。
その他	本研究の実施に際しては特に資金を必要としません。 本研究は企業や団体とのかかわりは無く開示すべき利益相反事項はありません。
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

旭川医科大学 外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科

電話 0166-68-2494 FAX 0166-68-2499

**研究責任者：** 旭川医科大学外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科  
講師（学内） 宮城 久之